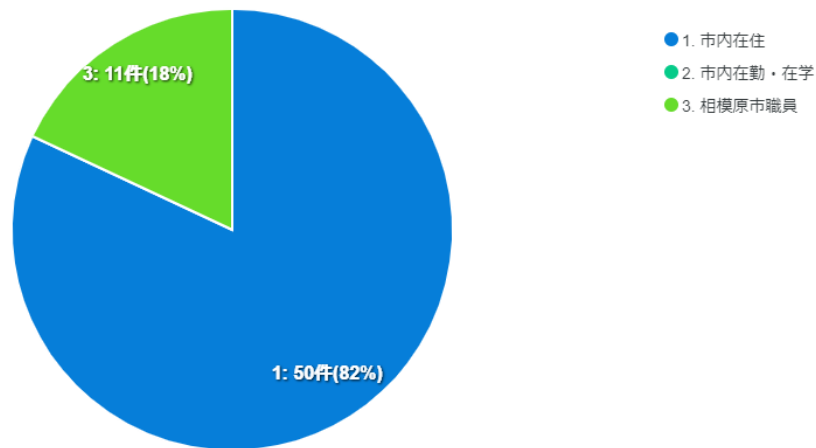


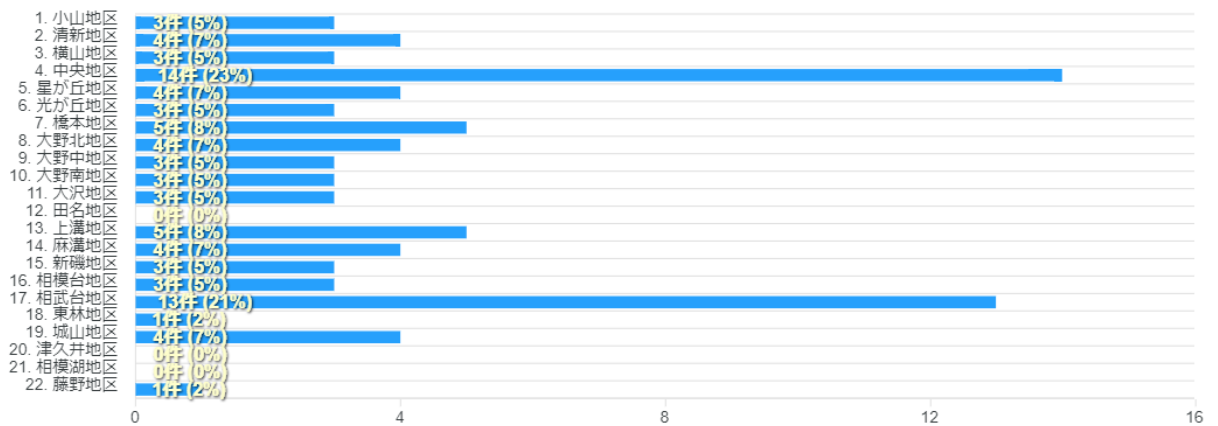
ながら見守り活動者に対するアンケート結果

- 1 期 間 令和6年8月15日(木)～8月30日(金)
- 2 方 法 Logo フォーム及び郵送
- 3 回答数 61件／130件 (回答率：46.9%)
- 4 内 容

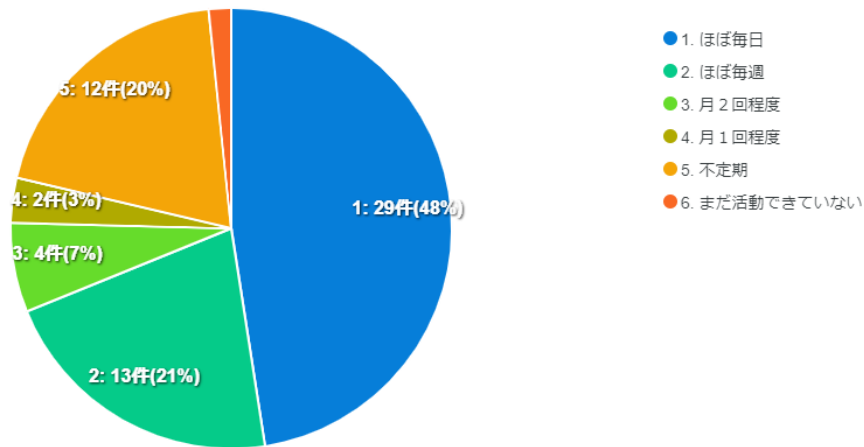
Q1 活動者区分を教えてください。



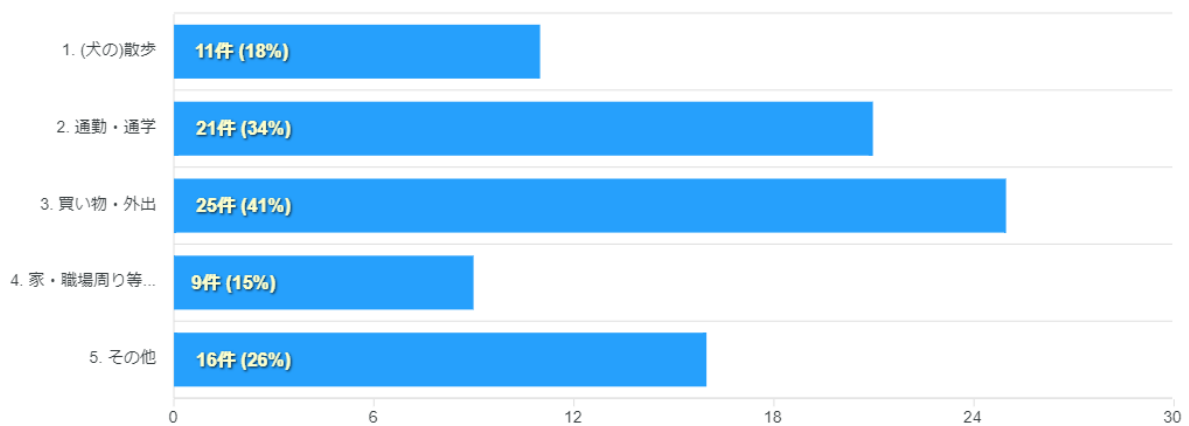
Q2 見守り活動を行っている(行う予定である)地区を教えてください。



Q3 活動頻度を教えてください。



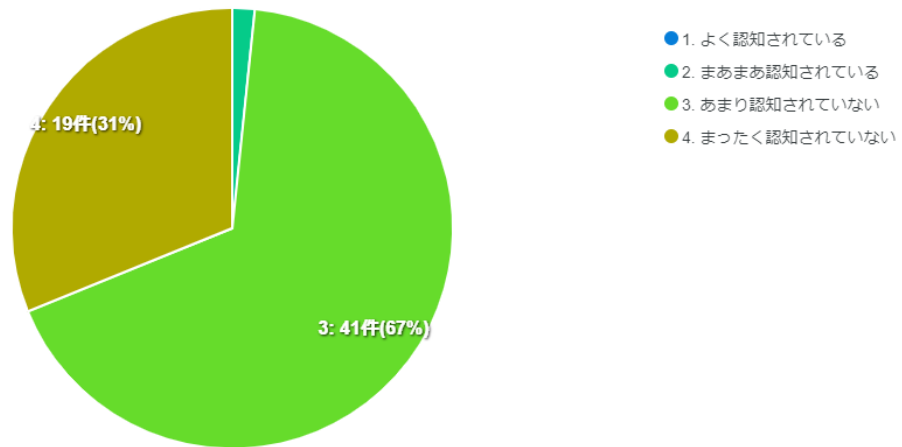
Q4 何をしながら見守りを行っていますか。



[その他]

- 子供の登校班見守りついでに
- 自治会活動時
- 子どもの迎えの時
- 家の近くが公園で、登校班の集合場所なので
- 学校でのボランティア活動参加の為の行き来の際
- 子どもの通学付き添い
- 学習支援など活動前後
- PTA活動や学校行事で活用したい
- 登校班付き添い
- ジョギング
- PTA活動
- 自動車による市内通行の際。
- 外出に該当するかもしれませんが、仕事の休み(平日の週休日)など。
- 街中移動の際
- 校外活動と毎日子供を学校へ送迎しているため、この時間にながら見守りをしています
- 子供広場の見廻り、集団登校集合場所など

Q5 ながら見守り活動について、どの程度認知されていると思いますか。



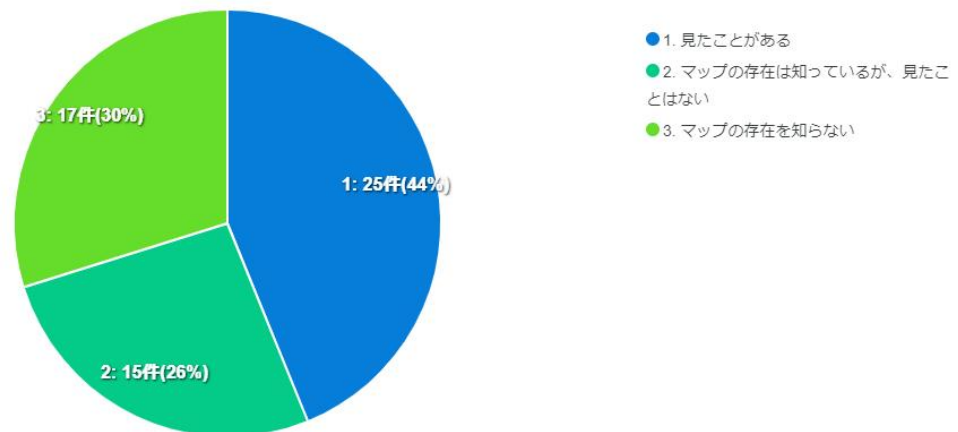
[どのような周知方法が有効だと思いますか。]

- 広報車などで定期的に発信する
- 地域情報誌、市広報誌など
- 学校を通して手紙配布だったりした方が周知されやすいかと思います。
- 各学校へ周知依頼し、PTA活動などに活用してもらう
- 市P連に情報提供するとともに各単P、学校に情報提供を行う。
- 自治会や各サークル、団体を通し積極的に広報すること。
- 本活動を何のために周知するのかによる。保護者や地域への安心感を抱いていただくために周知するのであれば自治会回覧や学校への資料配布で十分と考える。
- 各学校ホームページの掲載、もしくはお知らせのお便り配布。
- PTAや自治会、企業などに直接呼び掛ける。
- 市報
- 以下は、既に自身の子ども(孫)を見守る立場であろう 30~50 代の親世代とその祖父母世代を対象から除いた意見です。
単に見守り隊のことを知っている人がどれくらいいるのかは分かりかねる。しかし、ながら見守りに参加している人がいないと感じるのは、黄色いバンダナを身に付けている人を全く見ないことが理由。
たとえ見守り隊に参加していなくても、子ども達が困っていれば手を差し伸べる大人は少なくないとは感じるが、どうしても見守り隊参加者を増やしたいのであれば、今どき黄色いバンダナはあまりにもダサ過ぎる。(私はカバンに巻いています。)対象は親になる前の20代(大学生)~独身者だが、もっと若者が身につけやすいグッズに変えた方が良い。どうしても目立つ色でなくてはダメならば仕方ないが。それがカッコ良ければ良いほど、ボランティア精神旺盛な自意識高い系を取り込むことが出来るのでは。
個人的には、アウトドア会社の会員のみに配られるピンバッチみたいなモノ(鞆や帽子につけられる)とか、素敵なデザインの手ぬぐい(首に巻いてもおしゃれで実用的)とかなら、SNSや口コミで広まりそう。残念ながら、さがみんのキーホルダーとかでは全く食指が動きません。モノで釣るくらいでないで、簡単に周知出来るとは思わない。

- イエローリボンの常時使用による周知 PR
- 自治会を通じた広報(掲示物や回覧)
- 学校や PTA などの団体で取り組むのが有効的だと思います。
- コロナ禍で知らない人と話さないが、守られている？ので学童たちは心開かない面も有る。
私の場合は、毎朝学童登校見守りをやってて、下校時は出来るだけ通学路、公園など回って*お帰り！と声かけ話している。
時々は見守りの安全帽子と名札を首にかけて、安心者をアピールしています。これだと他地域の子供にも安心して貰えるようだ。黄色のハンカチもバックに掛けているが分かりづらい？
SNS などで投稿も必要か？
- 黄色のハンカチが目立たない。蛍光色のような目立つように、質問されない
- 自治会回覧、掲示板、公共施設への掲示、職員が黄色いハンカチをつける
地域のコンビニや商店に協力を依頼して登録してもらい店先に「ながら見守りのお店」などの黄色いステッカーのようなものをつけてもらう(こども 110 番の家のようなイメージ)まちづくり会議から各団体へ周知を促すなど。
- あらためて、児童・保護者・教職員にむけて周知する。ポスター等の掲示
- 見守りの時間帯的に高齢者や主婦の参加が有効と考えることから、広報さのみはらによる周知がよいと思います。
また、「ながら見守り活動」という文字だけではイメージしにくいいため、黄色のバンダナを装着している写真や絵でお知らせする必要があると考えます。
通勤し「ながら」見守るのであれば、市の職員は全員加入でも問題ないと思う。
- 地道に活動を広げていく。
- 広報誌や HP で、一定期間連続して発信し続けること。
- 各所のぼり旗常設。地域で監視体制が敷かれていることの認知度が防犯に役立つ
- SNS を活用する
- 活動人数を増やす。
バンダナでは結んでしまうときがみんとロゴが見えづらくなるため、他の明示方法を検討する。
- 大変かもしれませんが、例えば議会で取り上げてもらって、広報誌で市長が挨拶で紹介。子供達にこういう人がいますよ、と熟知させ、更には PTA に理解を求める。私は一応民生の連絡会で紹介させていただきました。
- ポスター
- 学校内で「ながら見守り活動」を子供たちに広げ、子供たちから家庭等で親世代に広げられないかと思います。
- 学校近辺の壁に張り紙等ですかね。
- 口コミ
- バンダナをいただきましたが、子どもたちへの認知度はいかがなのでしょう
か。
学校を通して、このバンダナを付けている人たちが見守っているよ、と伝えていただくのがよいかと思います。

- 掲示、回覧板など
- 地域の方向けだと、井戸端会議。小学生・中学生向けだと、クラス担任の口。
- ポスター、インターネット、学校のホームページなど利用しても良いと思いました。
また「見守り隊」と「ながら見守り」の区別でちがいをしりたいとの声もありました。
- 広報に載せるとか、町内会での回覧板はよく見るので
- 児童の登下校時に、バンダナ等の着用、声掛け。
学校からも、地域にそういう人がいるという事を伝えておく。
学校だより等での、保護者への周知。(保護者のみっていないところで地域の大人とのコミュニケーションがある事を知っておいて欲しい)
- やられているかもしれませんが、児童生徒のいる家庭への周知

Q 6 通学路危険箇所マップを見たことはありますか。

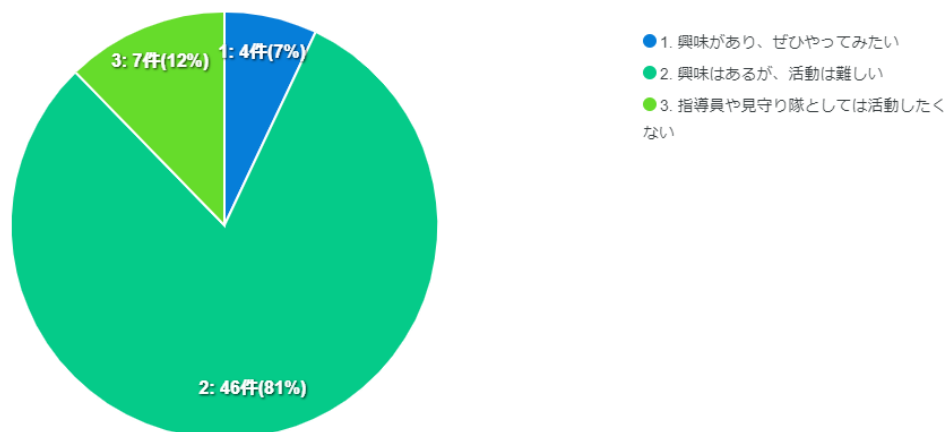


[マップを利用する中で気づいたことや、課題・改善点を教えてください。]

- 危険箇所マップは参考になりますが、いつでも何処でも危険は潜んでいるので、どんな場所でも、止まるところは先ず止まる、危険予知をして通学して貰えればと思います。
- 保護者側が危険と思っている箇所との乖離
- そのマップがあるという事を知る機会が少ない上、知っても自らアクセスしないと利用できないのは、手間に感じる。
- 過去の事故やヒヤリハット、保護者などからも意見をうかがい、反映させたら良いと思います。
- 近隣の住民に個別説明が必要
- 通っている生徒やその保護者が危険箇所のマップを見て注意するのは前提の話で、むしろ、そのエリアを通行する地域の人達へ「ココは通学路です！危険箇所です！」と周知するのがいいのでは。
- 危険箇所マップは、朝の学童登校見守りではボランティアが立っているが、帰りは一部の人しか？活動してないので、父兄の中で手の空いてる人が自主的にやれば良いと思う。
危険箇所と言われるところに信号が無かったり、狭い道を学生が横になって歩いたりもあるので、学校及び家庭での指導が一番大事！

- 記憶が薄い。集団登校、個別登校の混在となっており、子供会等の加入が関係しているのか？ 地域としての連携を模索して前進を
- 小学校で見ていたので知っているが、地域の人のお多くは見たことがないと思う。まちづくり会議や自治会長会議で配布、自治会で回覧するなどまずは存在を知ってもらうことが必要とおもう。
- よくできていると思います、ただし何かしらの担当にならないとまずマップを見ることは無いかと思います。スクールガードリーダーについても中々耳にしないです
- すみません、都合で危険箇所には到達していません、が、通学路では割合車の往来が多く、そこを危険箇所として自認し事故防止に努めています、
- 大野北小学校付近の情報がほとんど無かったです
慈善活動として有識者で情報をアップデートできると良いかと思います
- 相武台のマップはよくできています。もえぎ台へ移行にあわせリバイス予定です。
- 自分達の学校の周辺も要注意などのポイントをつけてほしいです
- 歩道、車道の区分が明確ではない所。歩道橋の登り下りに注意。

Q7 登下校時に交差点などで見守りを行う「学童通学安全指導員」や「学校安全活動団体(見守り隊)」の活動に興味はありますか。



[その理由を教えてください。]

- 仕事と、ボランティアと介護で時間の余裕がない
- いまは拘束される時間がない為
- 責任が伴うから。
- 仕事、ボランティア活動しているので、時間確保が難しいと思います。
- 時間が無い
- 子どもの通学路と違う道を通るから
- 登校時は勤務時間に間に合わず、下校時は勤務時間内のため
職務免除となれば可能であるため、人事委員会規則に定めたらよい
- 自由な時間、出来る範囲で活動したいので決められた時間になかなか出来ない。できる時に見守りをしたい。
- 時間的に難しいです。

- 生活上月数回なら協力できます？
- 稼働年齢層であり、フルタイム勤務で時間的余裕が少ないため。
- 子どもに家の鍵を持たせていない為、子どもより先に家を出て、下校時間より早めに帰宅する事が難しい為。
- 決まった時間や場所にいつも行けるわけではないから。
- 70歳だから
- 他に自身でやらなければならないことがあるため。
- 仕事をしているため
- 時間的余裕がない。
- 時間が拘束されるのではないか、実績報告義務が生じるのではないか、という点が心配です。個人のボランティア活動の域であるなら良いのですが。
- 時間带的に子供たちの世話などで難しい。
- 仕事、自治会長としての役割があるので、時間が取れないから
- 登下校の時間帯は既に仕事に従事しているため
- 学童通学の時間帯に業務が入ることが大変多いため
- 仕事があるため。
- 自分のペースで協力したい。
- 人付き合いが苦手
- 勤務があるため
- なかなか時間が取れない。共同作業は難がある。
- 下の子がまだ小さいため
- 仕事の都合で、勤務場所や勤務時間が不規則に変わるため、固定化して対応するのは困難です。
- 自治会会議など多いため
- 仕事をしておりその時間帯に活動ができないため。
- 登下校の時間帯は仕事のため。自分の子供が小学生のため、PTA活動として当番で交差点での旗振り、交通指導日の登校についていく活動はしている。
- 小さな子どもがいるため。
- まだ中高生の保護者なので。10年後くらいにデビューしたいです。
- 学童通学安全指導員は、毎日子供の送迎があるため活動は困難ですが、学童通学安全指導員さんには毎日ありがたいと思っています。感謝しております。
- 子どもがまだ留守番ができず下校時間帯は難しい 下校時間の時間帯が早い学年なら可能
- 高齢者なので 暑さ寒さの厳しい時期は、体力的に活動はキビシイ。
- なかなか時間がとれない
- トラブルに巻き込まれたくない
- 仕事のため
- 一度に大勢のお子さん達を見守れるか不安。
- 業務と介護の都合から、毎朝、必ず行けるとは限らない
- まだ小さい子供がいるため。

Q 8 活動する中で気づいたことや、課題・改善点などを教えてください。

- 子ども見守りとともに、子ども SOS の看板を個人宅に掛けさせてもらっては
どうですか？
- 地域ぐるみで自治体の班単位とかで、年間の見守り当番を決めて行えば良
いと思います
- 周知をして多くの参加者を持ち、子供たちを見守る環境を整備していきたい。
- 相模原補給廠沿いの道が広がれば多少は安全に登下校できますが、なかなか
工事が進んでおらず、むしろ工事が止まっているように思います。どの様な
進度なのか説明が欲しいです。
その付近のゴミ捨て場もスクールゾーンにはみ出しているの改善がされて
いなくて朝早く収集日はかなり危険。
現状見て、対策してください。
何十年もこの状態が続いております。
警察の方や市役所の方が登下校の時間帯に現状を見ていただきたいくらいで
す。
危険を回避するためにも、各家庭の教育も第一ですが、それに伴い整備や改
善をしていただきたいと思います。
- 何かあったときや気づきを報告できるツールがあるとよい
写真や場所、概要を送付するだけの簡単な物とか
- 特になし
- まだあまり活動してないのでわかりません。
- ボランティア活動で見守り活動をしていただいている方がいることに感謝す
るとともに、あらためて見守り活動の大切さを感じたところです。一方でボ
ランティア活動に限界を感じる(活動されている方の高齢化のため)ことから、
継続的に実施されるようボランティアではない形での運営方法を検討する必
要があると感じます。
- こども達に声かけをしても、親などから知らない人と口を利いてはいけない
～などの注意を受けているせいか無視されることも多い。腕章のような何か
身分を証明できるものがあればよいと思います。
- 私の通勤や退勤で活動する時間・経路では児童等をほとんど見かけなかった。
知らない人が多いようで、特に子どもたちからは『その黄色いバンダナは何？』
と聞かれた。知らない人から話しかけられるイコール不審者と感じる子ども
もいる為、どこまで活動して良いのか、判断に困る。
- バンダナのサイズが微妙で、一部分をポケットから見せる程度なので、もっ
と分かりやすいものがあると良いかも。
また、より多くの人に参加してもらい、黄色が一杯になると街に色がついて
楽しいかも。
- バンダナより安全ベルトの方がアピールできると思う
- 自身の生活に合わせて活動できる気軽さは何よりも一歩踏み出すきっかけに
なると思う。義務や制限がつくと、やる気が無くなるため。
- こどもたちの危険認識アップ
- 保護者に周知するためには、入口のハードルを下げた方がいいと思った。
個人情報の登録…となると、敬遠される人も出てきそう。
子供たちの見守りなので、市内小中学校には登録なしで全世帯に配布しても

いいと思った。小中学校に通う生徒なら、わざわざ登録しなくても個人情報
は市で管理出来ていると思うので。

そして、学校行事の運動会等で観覧する保護者が付いたり、参観日などで学
校へ行く際に身に付けて、地域の人目に触れてもらう機会を増やせるとも
思った。

- 朝の登校時は余裕が無いのか？ *おはよう！の挨拶は少ないが、下校時や
他の場所で会った時には気軽に声かけてくれる。
いろんなボランティアをやってるので、学童と同世代の高齢者に目がいくが、
もう少し周りの人に関心持ってもらいたいなあ。
- 見守り隊の知り合いがいない。
- はじめは自分の子どもの登校に合わせて自分の登校班の見守りから始めて、
地域の登校班が通過し終わるまで信号のない交差点で見守りをしているが、
自動車や自転車のマナーなど気になることがあっても情報共有が難しいと感じ
ていた。
ながら見守りが始まったことで交通安全協会や小学校の校外委員、地元交番
などと情報共有できるきっかけになればいいと期待している。
- 地域の住宅増加による対応や高齢化による活動の地域差
- 特になし。
- 特にありません。
- 目に見える防犯、安全対策の実施がわかる常設看板が必要では。
- 年配の方々が協力しやすい活動にしたらよいと思う。具体案はわからないけ
れど
- 大人の通勤時間と子供の通学時間が必ずしも一致しない
下校時間は勤務中であること
夏の間は子供の下校時間は犬の散歩に向かない
- ながらという言葉が気に入って登録させていただきましたので、あまり力んで
やることもない、という気がします。
あまりボランティアの方に負担が増えることを考えない施策が必要では無い
でしょうか。負担が多くなって来ています。
改善点としては、いただいたバンダナが小さいのが一つと、逆に事務局の方
がそれを着装し、果たしてなんの効果があるかと考えていただければと思
います。
- まだまだ周知されていない
- やってみることが重要です。で、意識改革
- ながら見守り隊の活動をしている方をまだ一度も見ていないので、現在の登
録者に対して活動を促した方が良いと思います。また、地域によってはなが
ら見守り隊の制度自体に疑問を持っているところもあるので、関係団体(PTA
等)に対して協力をしてもらえるよう説明した方が良いと思います。
- 先ほどの項目でも記載しましたが、子どもたちへの認知度はいかほどでしょ
うか。
バンダナを付けた状態で声掛けをしたときに、不審者と思われるのはつらい
ので子どもたちへの周知も同じようにしていただきたいと思います。
- あの大ききのバンダナはどう使うのが正解か迷い、犬お散歩バッグの紐につ
けています。他の方のバンダナテクを知りたいです。

- 今回校外活動もしているため、ながら見守り(1年間)に参加させていただき
ました。学校の保護者にもぜひ周知してほしいと思いました
- 特にありません
- 1件のみ見かけた
夕暮時自転車無灯火にて走行
ヘルメット着用なし(中学生らしい?)
- 登下校の児童の見守りをしましたが 登校時はおはようございます 行って
らっしゃい等の声かけが出来ますが下校時は声かけ難しいです
暑い日が続いていますので外遊びの児童も少なく感じました
- 黄色いハンカチが目を引くので興味を持って貰えてると感じました。
- 見守り隊のバンダナが黄色いのですが、犬につける場合黄色はコミュニケー
ションが難しいという意味があるので出来れば違う色に変えて欲しい。
- ほぼ、自転車での移動なので、児童の登下校の横を通り過ぎる程度しかでき
ていません。わざわざ降りて歩くのも怪しい人になってしまうのできーっと
見ていて、何かあれば助けられる体制でいるつもりです。
歩道(車道との境界は白線のみ)でおふざけしながら歩いている児童がおり、
「ちょっと危ないなあ〜」と思って見ていたら、案の定急な動きで車道に飛
び出してきて、声をかけたことがあります。
子どもによくある動きですが、車道の横でのおふざけは本当に危ないのでそ
のことをよく知ってもらいたいと常々思います。
もしも、車にぶつかればその場合車が加害者になりますが、突然飛び出して
こられてしまったら車の方が被害者だと感じます。
キチッと歩けとは言いませんが、先のことを少し予測できるよう学んでいっ
て欲しいです。
同様に児童・生徒の自転車の乗り方も自由すぎる場面があるかなあとと思いま
す。
学校でも年に一回の頻度くらいで交通ルールについての学習があって良いと
思います。自転車には何の免許もいない時点で危険です。
地域のイベント等ではなく、学習として触れる機会があって良いと思います。
色々書いてしまいすみません
- 途中でバンダナを落としてしまいました。再交付していただけると助かりま
す。
これは思い付きですが、市への(関連事業への)寄付金付きでバンダナを販売
しても良いかもと思いました。”

以 上